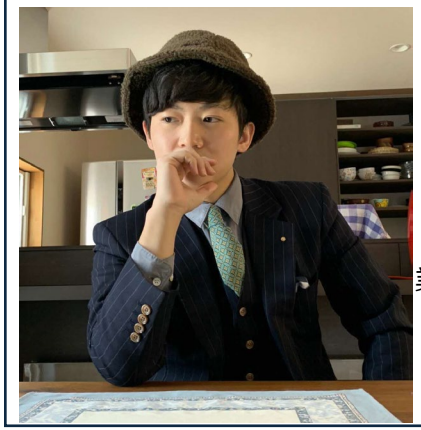
10 デジタル

北海道安平町　髙橋　颯

デジタル

～　デジタルで移住と観光を面白くする技術者　～

基本情報



【年　齢】
32歳
【出身地】
北海道　釧路市
【転出元】
北海道　札幌市
【前　職】
Sier　以後会社を複数起業し、現在に至る。
【活動時期】
R6.4～R9.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

Fanfareあびら起業家カレッジを知人が運営していて、ご縁をもらったことが最初のきっかけでした。
深く町を知る中で、充実した子育て環境と自然の豊かさが共存する魅力的な町であることがわかり、移住してみたいと感じました。もともと、北海道から本州のお客様をシステム企画・開発によりサポートする仕事をしており空港が近いことも非常に魅力的で、安平町はそうした意味でもベストマッチでした。

今後の抱負・任期後の目標

IT 技術を活用したまちおこしに取り組んでいます。昨年度は役場と連携し、道の駅にARスポットを設置、子どもやシニア向けのデジタル体験機会を提供しました。また、スマートワーク推進協議会委員に任命され、長期学習プログラムのマネージャーを務める、デジタル活用共生社会推進協議会に任命、地域ICTクラブ設立協議に携わりました。
今後は、町民向けのデジタルを活用した仕事の創出をメインに、探究授業や放課後のデジタル支援、町内のIT相談にも対応、各種活動を推進するNPO設立を目指しています。

活動内容

●スマートワーク推進プロジェクトの長期プログラム

マネージャーとして、月に 1-2 回程度の授業実施に伴う現地サポートのみならず、授業のバックアップ・アナウンス・受講者からの相談（slackによるサポート）・OJT を通した受講者のトレーニングを実地するとともに、プログラム受講生に仕事の紹介および受注仕事の管理マネジメントも実施しています。



●子ども向けデジタル体験イベント支援



毎週木曜に実施するデジタル体験イベントにおけるスタッフとしての関わり、
子どもに提供したプログラムのうち主に「教育版マインクラフト」におけるカリキュラムの進行役やメタバースを用いた多拠点交流を担い、本事業における他拠点交流イベントにおいて子どものデジタル作品を展示等を実施しました。

●高齢者向けデジタル講座

高齢者に対する「デジタル活用講座」として、高齢者の集まる場（オレンジカフェ、体測定会など）に訪問し、10～15分程度の講座を担当。スマホ（アプリ）の使い方や困りごと相談等を実施しました。ほかにデジタル技術に触れられる機会を提供しました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
所属先：安平町役場政策推進課政策推進グループ
（メールアドレス（職場））　m-suishin@town.abira.lg.jp
▶（電話番号（職場））　0145-22-2751
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
▶安平町公式サイト
https://www.town.abira.lg.jp/chiikishinko/chiikiokoshi/taiin/1727

茨城県　大場　一雅

デジタル

～　生成AIを駆使した企業の海外展開支援　～

基本情報



【年　齢】
42歳
【出身地】
大阪府守口市
【転出元】
ウズベキスタン タシケント

【前　職】
国際金融公社
【活動時期】
R５.９～

協力隊に応募したきっかけ

茨城県北地域おこし協力隊【起業・複業型】（通称：KENPOKU PROJECT E）が掲げる「地域外からの新しい視点で県北地域の資源活用と課題解決につながるビジネスを起こし、その成果を地域に広く波及させる」という目標に共感し、自身のICTを駆使した市場調査を提供するビジネスを茨城県県北地域で実現したいと考え応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、中小企業や自治体における導入事例をさらに拡充しつつ、大学や官公庁との共同研究を通じてAIモデルの精度向上を一層推進して行きたい。
また、国内だけではなく、海外企業等へのアプローチも継続し、世界市場向け製品開発に取り組みたい。
任期後のブランド目標は「茨城発グローバルAIプラットフォーム」としての認知確立。

活動内容

●AIを活用したプラットフォーム「KiAI」の開発・提供

「KiAI」のサービスは、すでに大手総合商社や官公庁、政府系金融機関などに導入され、マーケット分析や外交・安全保障分野で活用されています。今後は、アフリカ、中東、ASEAN諸国への展開を加速し、企業の海外進出支援、国際協力、災害対策、人道支援分野への応用も視野に入れて活動していきます。



KiAI：ビジネスの国境を無くす新興・途上国特化型リサーチAI
・新興国の現地で起きていることをタイムリーに情報提供
・現地の公開情報を取得。AIで情報を処理し、ニュースコンテンツの生成。（ビジネスレポートサービス）

●大学・産学官連携の推進

茨城大学工学部との共同研究を通じたAI技術開発や学生インターンシップを積極的に受け入れることにより、雇用創出と人材育成・定着に大きく貢献すると期待されています。
また、研究・教育・地域活性化という各領域にまたがる事業連携という位置付けで、2024年３月「茨城大学発ベンチャー」の称号を授与されました。地域おこし協力隊の起業活動が地域活動の発展に寄与する先行モデルとして活動しています。



●地域産業の競争力強化支援

茨城県北地域の中小企業向けセミナーを開催し、生産性向上の視点から生成AIの活用についての講演を行い、情報格差の解消を図るほか、海外展開を模索している企業に対し、販路拡大等の支援を行っています。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））kazumasa.oba@gmail.com
（電話番号（個人））050-3575-8368
【主なSNS・サービスページ】
https://twitter.com/Kazumasa_Oba_
https://kiaifund.com

神奈川県相模原市　中島　竜馬

デジタル

～ICTを活用した、中山間地域の課題解決と地域の魅力発信！～

基本情報



【年　齢】
２８歳
【出身地】
大阪府八尾市
【転出元】
埼玉県さいたま市
【前　職】
組み込み系エンジニア
（株式会社ワコム）
【活動時期】
Ｒ５．１０～
（３年目）

協力隊に応募したきっかけ

高専卒業後、システムエンジニアに就くものの、パソコンにずっと向き合う環境であったり、高度すぎる専門職に将来性を感じず退職しました。

その後、世界を旅するうちに「都心に住む人を対象にモノづくりを通じて『自立共生』を学べるコミュニティ」を作りたいと思うようになりました。相模原市にある「廃材エコヴィレッジゆるゆる」へ滞在したことをきっかけに、相模原市の地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

１．システムエンジニアのスキルを活かし、中山間地域の課題解決に挑戦します。例えば電子工作で動物よけオブジェや農林業向けのIoT機器を作る等です。また生成AIやスマホを使いこなすための講座を実施するなど、地域に寄り添った支援も行います。
２．「Akari Video」というAIを活用したSNSマーケティングツールを開発し、小規模事業者のビジネス支援を行います。
３．　たこ焼きキッチンカーの小商いを通して継続的に地域の人と関わり、地域活性化を図っていきます。

活動内容

●「デジタル機器なんでも相談会」

「デジタル機器なんでも相談会」は、地域あるいは地域住民へのデジタル化支援を通じたデジタルデバイドの解消を目指している。相談者の個別のお悩みにきめ細やかに対応することにより高評価をいただいている。２０２４年１月より３２ヶ月間の相談実績はのべ７００名となっている。



●地域産食材を使ったたこ焼き出店

銀だこ焼き修行５年の経験を生かし、相模原市の藤野地区の特産品であるゆずを使ったたこ焼きを開発。野外イベントで定期的に試食販売をして相模原市の魅力を発信している。ゆずだけでなく、地域産の小麦粉やネギなども使用している。

またキッチンカーなどの野外出店にまつわる保健所や各イベントでの売り上げデータのまとめを行うなど、ビジネス面での支援も行っている。



●鳥獣被害対策用の動物よけオブジェの開発

相模原市の中山間地域は鳥獣害による農作物の被害が大きいため、電子工作を用いた動物よけオブジェを開発している。農林福藝連携プロジェクトの一環で行なっており、福祉施設の方と一緒に行った皮剥き間伐の木材を使用している。現在は、 製品化に向けて 農作物の被害が出ている民家にて実証実験をおこなっている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
・メールアドレス（個人）ryoma@morilab-fujino.jp
・電話番号（個人）080-4778-2883　／電話番号（共用）080-3428-9790
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram：https://www.instagram.com/ryoma_nakajima
・森のイノベーションラボFUJINO（活動拠点）：https://morilab-fujino.jp/

鳥取県湯梨浜町　瀧川　和也

デジタル

～デジタル不安をゼロに！「できる」が増えるスマホ安心窓口～

基本情報



【年　齢】
57歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府貝塚市
【前　職】
・新規事業コンサルタント
・学習塾・飲食店の経営
【活動時期】
R6.11～

協力隊に応募したきっかけ

前職では、それなりに充実したワークライフを過ごしておりましたが、自分の仕事が誰の役に立っているのか直接実感する機会が少なく、地域に直接貢献できる活動をしたいと感じていた。人口減少や高齢化など地方が抱える社会課題の解決に関わりたいという思いから、地域おこし協力隊に応募しました。特にデジタル分野を通じて、人と人をつなぎ、暮らしを少しでも便利で楽しくできるような支援を目指している。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、これまで培ったデジタル支援の経験を生かして、地域の中で「小さなありがとう」をたくさんいただけるような活動を続けていきたい。町内の多世代交流を促し、高齢者が安心してデジタル活用できる環境づくりに取り組むとともに、任期後も地域に関わりながら、継続的なサポート体制を築ける仕組みを整えていくことを目標としている。

活動内容

●スマホ相談会の実施

町内各地区でスマホ相談会を週3回開催。高齢者を中心にスマホの基本操作やLINEの使い方、写真の共有、キャッシュレス決済方法などを支援している。個々の習熟度に合わせたマンツーマン指導を行っている。



●スマホ活用術教室の講師

町民向けにスマホ活用術教室の講師を務め、便利なアプリの紹介や詐欺対策、災害時の情報取得方法などを解説。ワークショップ形式での学びを通じて、参加者同士の交流の輪を広げ、デジタル活用への不安軽減と地域のつながりに貢献したい。



●地域行事やコミュニティへの参加

各地域の行事やサロン活動に積極的に参加し、住民との信頼関係づくりを進めている。相談会だけでなく、日常的な会話や支援を通して地域の声を聞き、今後の活動に反映するように努めている。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス　takigawak@yurihama.jp）

岡山県津山市　藤田　堂報（とむ）

デジタル

～　地域内企業の成長をICTでサポート　～

基本情報



【年　齢】
61歳
【出身地】
大阪府東大阪市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前　職】
経営コンサルタント
【活動時期】
R6.6～R9.5

協力隊に応募したきっかけ

コロナ禍を機にリモートワーク中心の生活となり、都市部に住む意義を感じなくなったため、全国でワーケーションを実践。2023年には世界一周旅行にも出かけ、世界中から働く生活を経験しました。このような生活を満喫した結果、自然と共に暮らす生活への憧れが強まり、中山間地域への移住を検討。その中で津山市の地域おこし協力隊事業を知り、これまでの経験を地域貢献に活かしたいと考えるようになり応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

津山では中小企業が手の届く価格でシステム開発を提供するITパートナーが乏しく、「ないなら作ろう」との思いで、学生と一緒にAI等のツールを使って効率的にシステムを開発する「株式会社地域のミカタ」を設立しました。任期後は、協力隊として培った地域との信頼関係を基盤に、学生や事業者と連携しながら、津山発の持続可能な開発モデルを構築し、全国へ展開していきます。

活動内容

●ICTコーディネーターとして地域企業を訪問

着任後の1年5カ月で、市内企業166社に延べ380回訪問し、ICT導入や業務改善、補助金申請等を支援。専門家派遣やセミナー共催を通じて生産性向上に貢献し、地域企業のDX推進に向けた基盤づくりを進めています。



●サテライトオフィス誘致

首都圏IT企業へのヒアリングや先進地視察を実施し、津山の強みと課題を分析。高専・IT企業・製造業との連携を軸に、企業誘致の量から質への転換を目指す方針を提案し、IT企業の津山への進出に向けた環境整備を進めています。



●株式会社地域のミカタとしてDX支援

地域に身近なITパートナーが不足している現状を踏まえ、「ないなら作ろう」との思いで設立。AI・ノーコード技術と学生エンジニアの力を活かし、中小企業にも手が届く価格でシステム開発を受託。地域発の持続可能な開発モデルを構築しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス）tom@c-mikata.co.jp
（電話番号）0868-24-0740（つやま産業支援センター）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（株式会社地域のミカタ HP）https://c-mikata.jp/